

技術トピックス

配電CVケーブル用常温収縮型接続材料

従来、配電分野においては、CVケーブル用の接続材料として、あらかじめEPゴムで成形された絶縁筒を差込んで組み立てる「差込型」、熱により加熱収縮させる「熱収縮型」が主流であった。

しかし、最近では接続作業の省力化の観点から、常温収縮型の接続材料を採用するユーザが増えている。

常温収縮型の接続材料は、あらかじめ工場で拡張した絶縁筒にインナーコア（拡張保持材料）を装着しておき、現場でインナーコアを引抜くだけでケーブルの接続が可能であり、火気を使用する

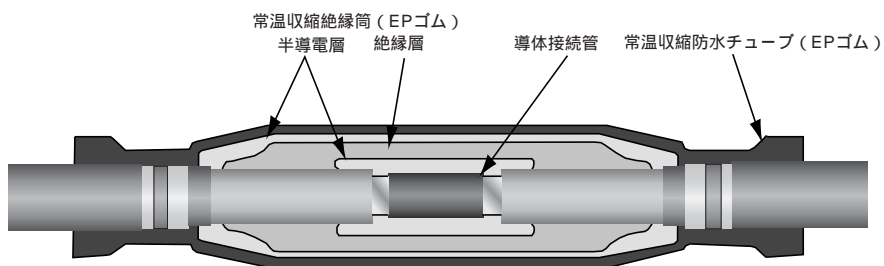
ことなく、特殊なスキルも必要としない接続処理材料である。

当社においても、EPゴムあるいはシリコンゴムを使用した6～20kV級の常温収縮型の終端、および直線接続材料の開発に積極的に取り組んでおり、最近では、当社で開発した常温収縮型端末、および直線接続材料が、KEMAにて、国際規格であるIEC60502-4の型式認定を受けたほか、国内においては、東京電力殿の6.6kV常温収縮型直線接続材料（図1）の型式認定を取得した。

（配電事業部配電機器部 町田）



(a) 絶縁筒外観



(b) 組み立て断面図

図1 常温収縮型直線接続部